

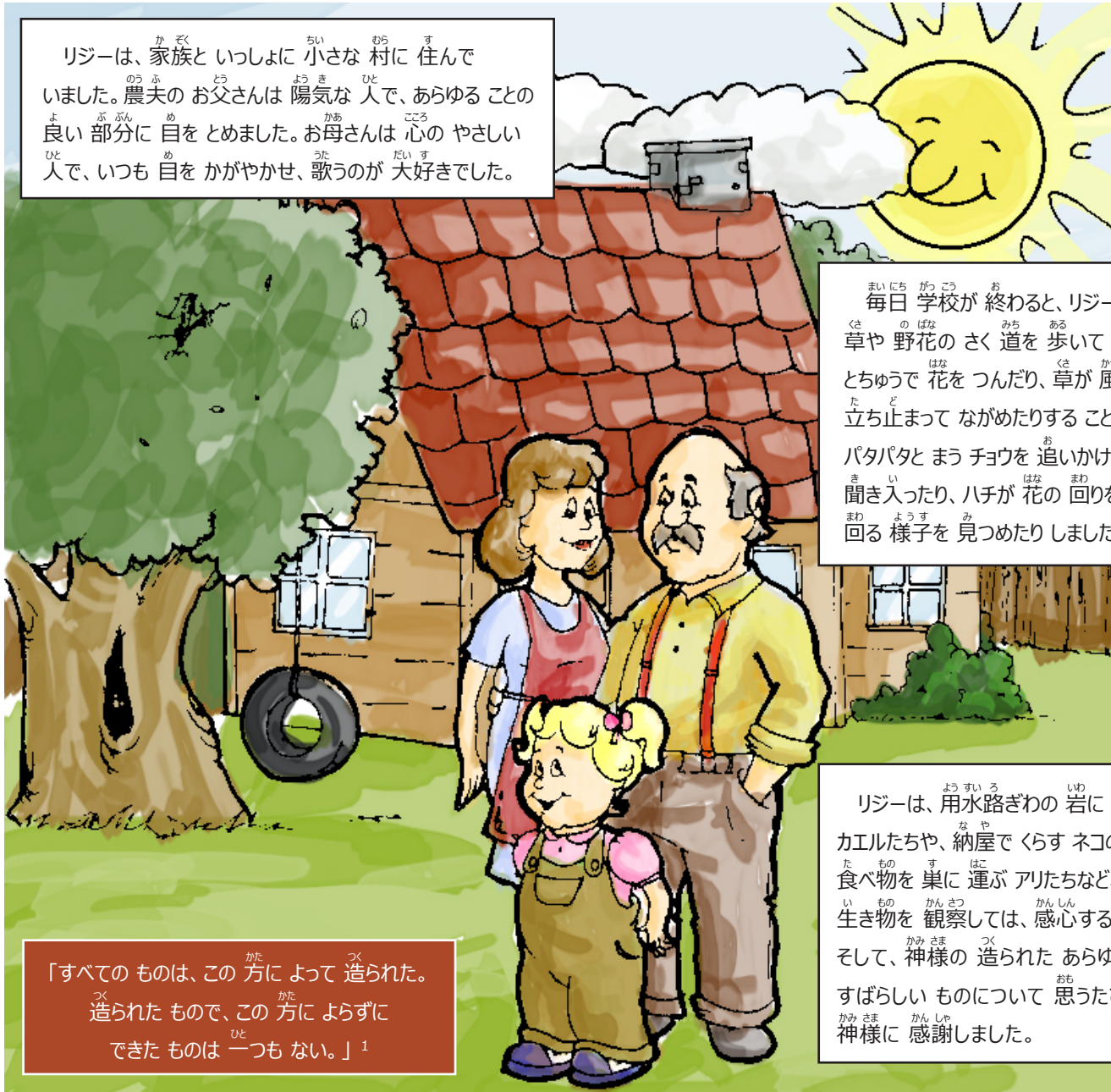
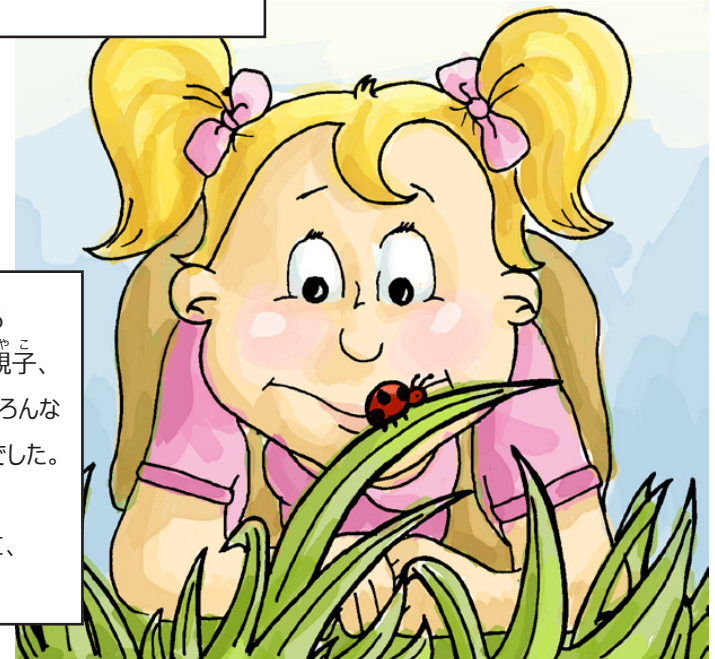
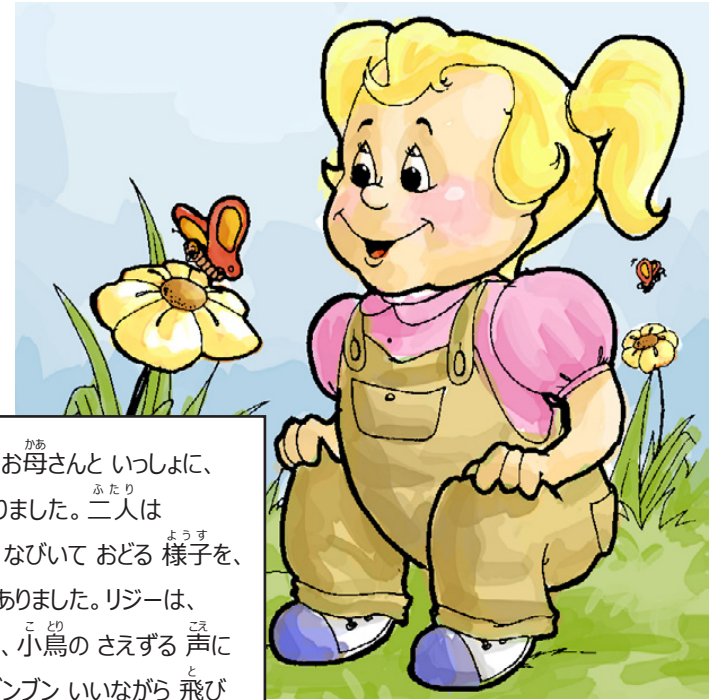
せ かい うつく 世界は 美しい!

リジーは、家族と いっしょに 小さな 村に 住んで
いました。農夫の お父さんは 陽気な 人で、あらゆる こと
の 良い 部分に 目を とめました。お母さんは 心の やさしい
人で、いつも 目を かがやかせ、歌うのが 大好きでした。

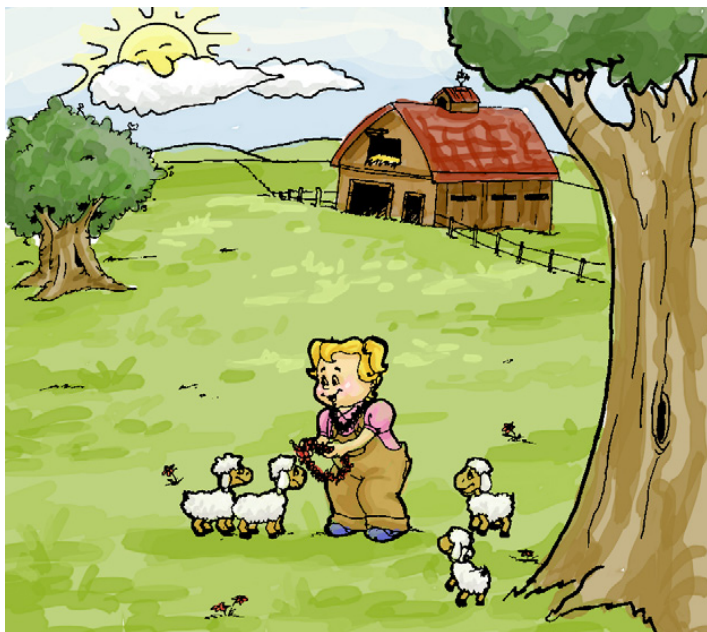
毎日 学校が 終わると、リジーは お母さんと いっしょに、
草や 野花の さく 道を 歩いて 帰りました。二人は
とちゅうで 花をつんだり、草が 風に なびいて おどる 様子を、
立ち止まって ながめたりすることもありました。リジーは、
パタパタと まう チョウを 追いかけたり、小鳥の さえずる 声に
聞き入ったり、ハチが 花の 回りをブンブン いいながら 飛び
回る 様子を見つめたりしました。

リジーは、用水路ぎわの 岩に いる
カエルたちや、納屋で ぐらす ネコの 親子、
食べ物を 巣に 運ぶ アリたちなど、いろんな
生き物を 観察しては、感心するのです。
そして、神様の 造られた あらゆる
すばらしい ものについて 思うたびに、
神様に 感謝しました。

「すべてのものは、この 方によって 造られた。
造られたもので、この 方によらずに
できたものは 一つもない。」¹



四季は色とりどりの
 変化と自然のふしぎを
 もたらします。春には、
 りんごの木が花に
 おおわれ、子羊が
 生まれます。お父さんは、
 子羊が順調に育って
 いるのを確認するために、
 リジーをいっしょに連れて
 行ってくれます。太陽は
 明るくかがやき、地面を
 温めて、あらゆるものに
 命をもたらします。

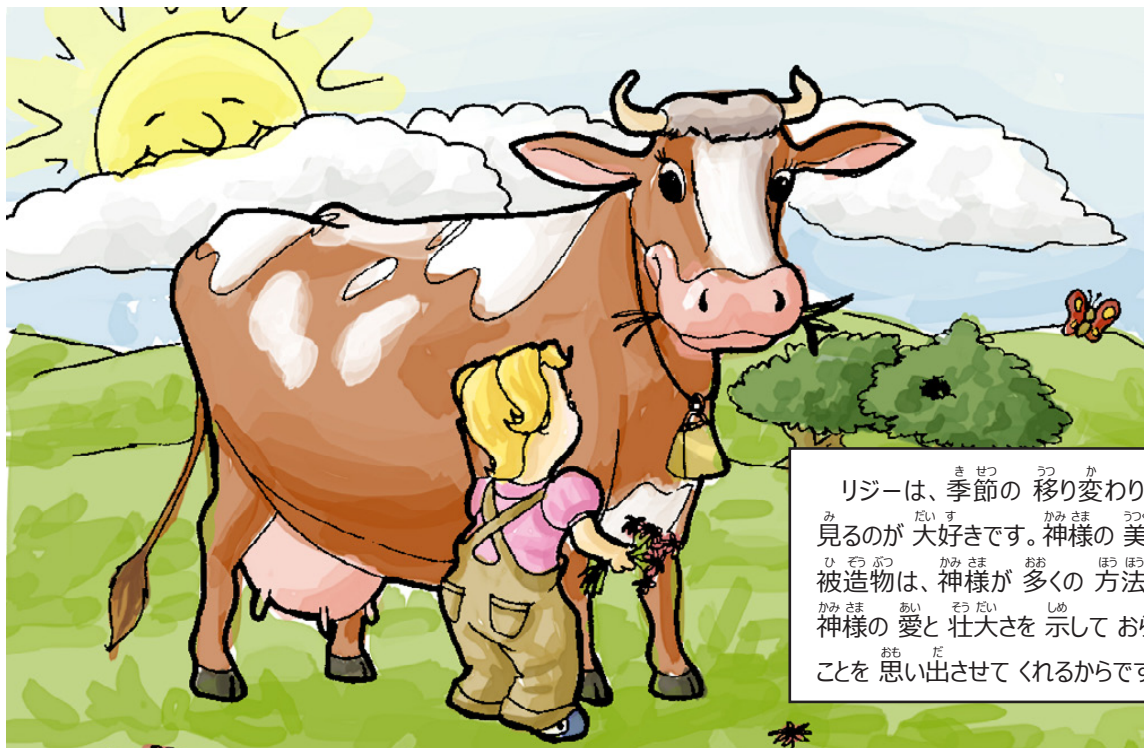


秋には、赤や金色の
 落ち葉をかき集め、それで
 王かんを作ってかぶります。
 リジーは笑いながら、風に
 まう落ち葉を追いかけます。

冬には、木々や屋根や
 地面がすべて雪におおわれ、
 辺りは銀世界となります。
 屋根からは氷のネックレスが
 下がり、木のえだに付いた
 氷のつぶは、キラキラと
 ダイヤモンドのようにかがやきます。



夏は、楽しく
 遊べる季節です。
 リジーは友だちと
 いっしょに池で
 泳いだり、
 牧草地の牛を
 ながめたり、
 木登りをしたり
 します。おいしい
 果実もたくさん
 実をつけます。
 リジーは友だちと
 いっしょに、
 かごいっぱい
 ベリーの实を
 集めます。



リジーは、季節の移り変わりを
 見るのが大好きです。神様の美しい
 被造物は、神様が多くの方法で
 神様の愛と壮大さを示しておられる
 ことを思い出させてくれるからです。

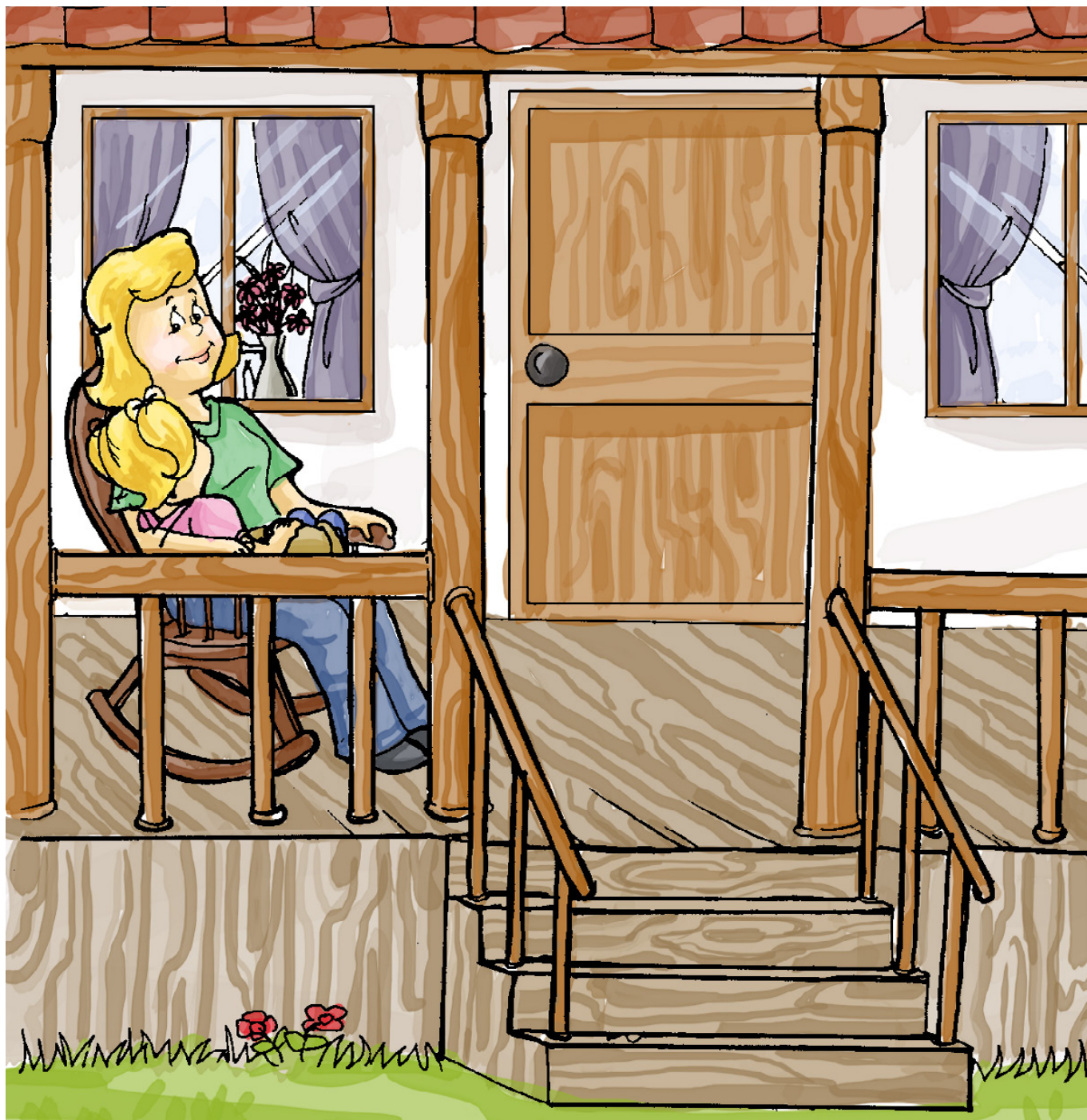


よる には、お母さんと いっしょに ポーチに すわって、
すみ渡った 夜空に かがやく 星を ながめる こともあります。

ある夜、リジーが いました。「星って、宝石が かがやいてる
みたい。それとも 星は 小さな 天使たちで、わたしたちに 愛を
送ってくれてるのかな。」

「そんな ふうに 思えるの、ステキだわ。聖書の ダビデ王はね、
天の 明かりを 造られた 神様の 愛は 絶える ことが なく、
永遠だから、神様に 感謝するべきだって 言ったのよ。²
神様の 造られた ものを 感謝する 気持ちを 表すのも、神様に
近づく 方法の 一つね。神様が どんなに 思いやりを こめて
すべての ものを 造られたかを 思うと、わたしたちに 対する
神様の 愛や 世話は、さらに もっと すばらしい ものなんだって、
はげみになるわ。」

「天よ、喜び 祝え、地よ、喜び おどれ。
海とそこに 満ちる ものよ、とどろけ。
の 野とそこにある すべての ものよ、喜び 勇め。
森の 木々よ、共に 喜び 歌え。」³



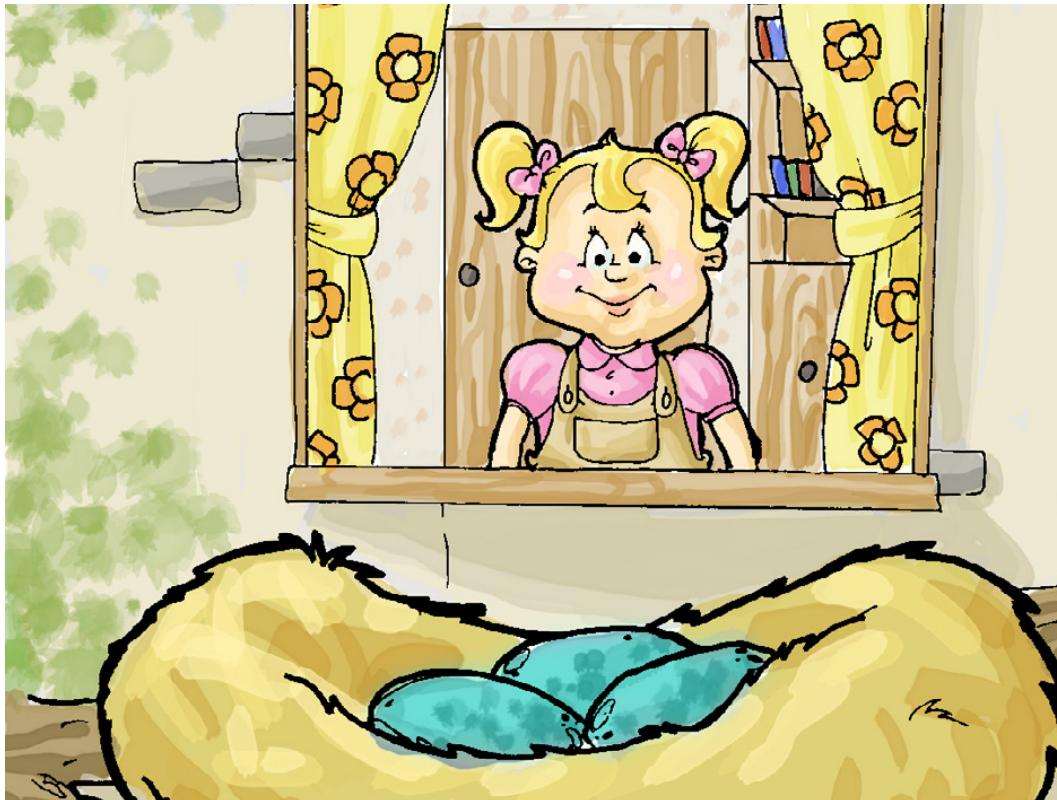


ある朝、コマツグミがリジーの部屋のまど台に止まって、かわいらしい声でさえずっていました。リジーが見ていると、小鳥はまど台からそばのサクラの木のえだに飛び移りました。大きなえだのくぼみには小さな巣ができていて、中には水色の小さな卵が3つありました。リジーは大喜びです。ワクワクしながら、鳥の巣のことをすぐに、お父さんとお母さんに話に行きました。

「お父さん、サクラの木に、小鳥のイサ台をかけてもいい？ そうすれば、母鳥がイサをたくさん食べられるし、ヒナが生まれたら、ヒナにも食べさせてあげられるわ。」と、リジーがたずねました。

「それはいいね。じゃあ、作業場を見て、イサ台を作る材料をさがしてみよう。」と、お父さんが言いました。

まもなくして、鳥のイサ台がサクラの木のえだにかけられました。リジーは、小鳥がイサ台に来て、イサをつつき始める様子をながめていました。リジーは、ヒナがかえる特別なしゅんかんを、今か今かと心待ちにしながら、毎日見ていました。

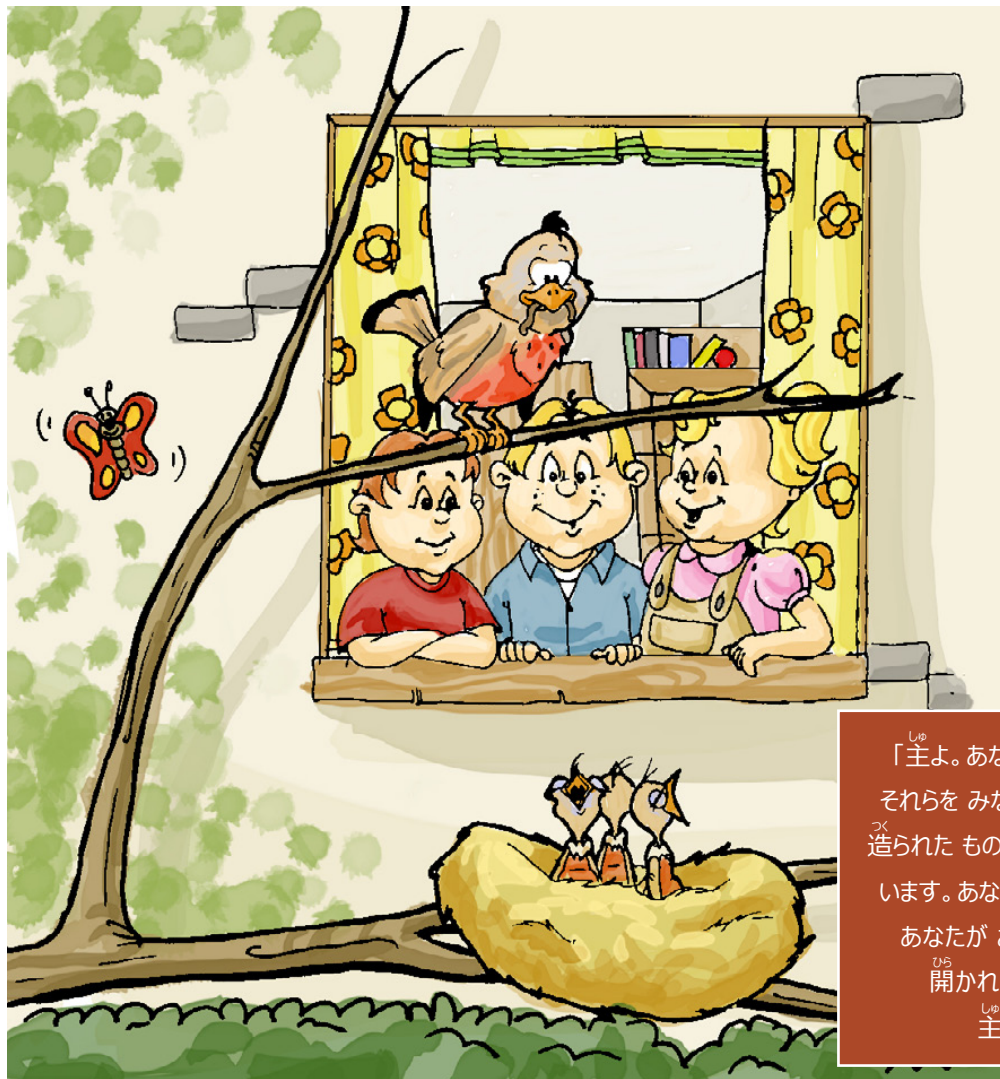


リジーは 友だちにも、この 特別な 発見について 話しました。それからという もの、友だちも、
コマツグミの お母さんが 卵を 温める 様子を ながめに やって来ました。

まもなくすると、卵は 一つ、また 一つと、かえりました。リジーは、ヒナが 頭を 持ち上げて
エサを ねだる 様子を ながめて いました。母さん鳥は ヒナに エサを やるため、巣と エサ台の
間を 飛んで 行ったり 来たり しました。ヒナたちは どんどん 大きくなって 丸々としてきました。

羽も 生えそろいました。じきに、飛ぶ ことも 学ぶでしょう。

リジーは、悲しみで むねが キュンと しました。ヒナたちが 成長する 様子を 見るのが とても
楽しかったのに、もうすぐ ヒナたちは いなくなってしまうからです。じきに、ヒナたちは 巣から ちよつと
出ては 庭を 飛び回るよう になりました。



「主よ。あなたの みわざは なんと 多い ことでしょう。あなたは、
それらを みな、知恵を もって 造って られます。地は あなたの
造られた もので 満ちています。彼らは みな、あなたを 待ち望んで
います。あなたが 時に したがって 食物を お与えに なる ことを。
あなたが お与えに になると、彼らは 集め、あなたが み手を
開かれると、彼らは 良い もので 満ち足ります。…
主が その みわざを 喜ばれますように。」⁴



ある日、リジーは コマツグミの 巣が 空っぽで、辺りにも 鳥たちが いない ことに 気が 付きました。

「小鳥たちが なくなっちゃったわ！ さびしく なっちゃう。ずっと いてほしかったのに。」と、リジーが お父さんに 言いました。

「卵から ヒナが かえって 一人前になるまで 育つ 様子を見れたのは、特別な ことだったよね？」と、お父さんが 言いました。

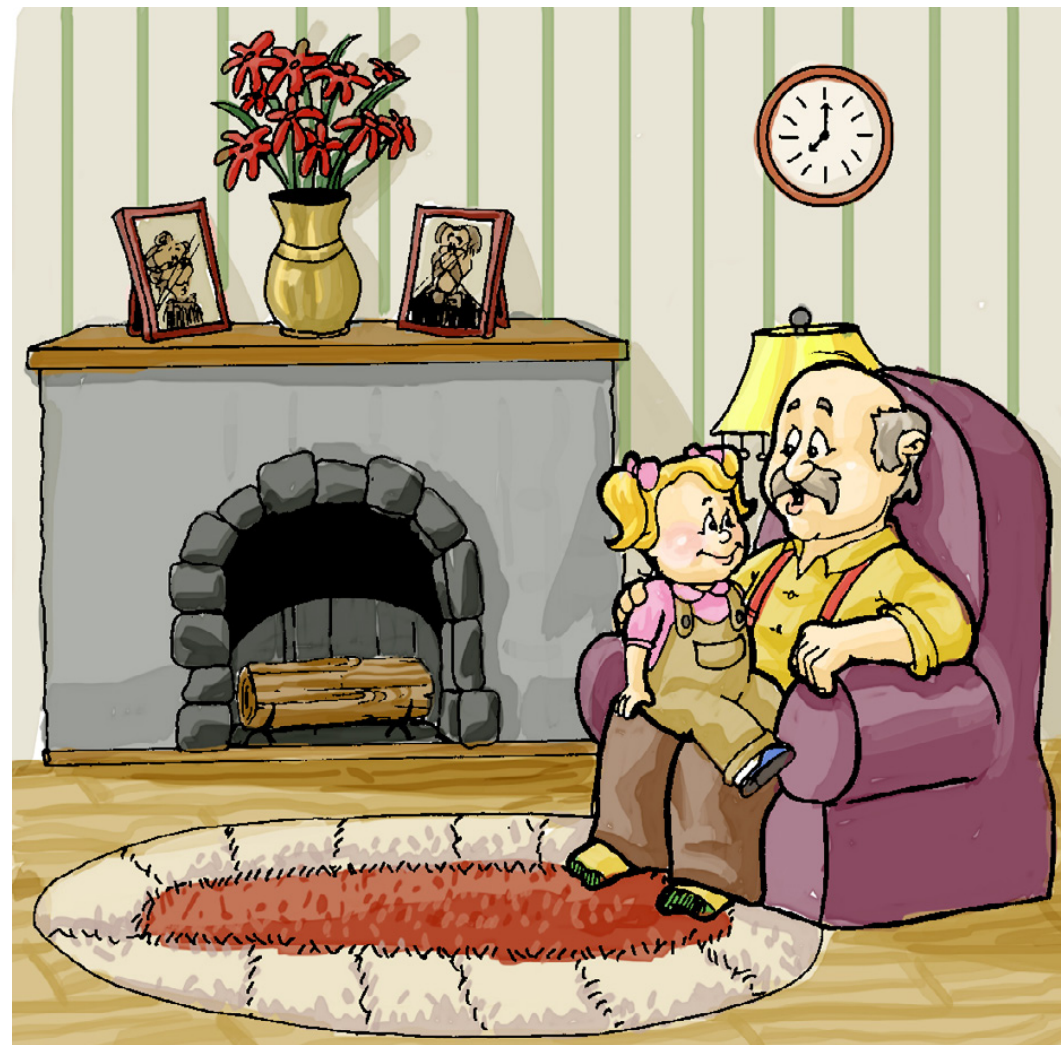
「だけど、うちの 農場を 出て行って しまったら、もう イサを あげられないわ。」と、リジー。

「やさしいだね、リジー。だけど、神様が すべての 生き物を 世話して くださっている ことを わすれちゃ いけないよ。わたしたちは、イサ台を かけたり、周りの 自然を 大切に することは できるけれど、最終的に 生き物たちの 世話を して くださるのは、神様なんだ。小鳥たちの ことも わすれないと、約束して くださっているんだよ。⁵ コマツグミのために 祈って、その後は、神様が 彼らの 世話を して くださると 信頼したら いいよ。それに、もしかしたら、鳥たちは イサ台に もどって 来て、世話してくれた ことへの 感謝の 歌を さえずって くれる かもしれないぞ。」



脚注:

- 1 新改訳聖書、ヨハネによる 福音書 1:3
- 2 口語訳聖書、詩篇 136:7 参照
- 3 新共同訳聖書、詩編 96:11
- 4 新改訳聖書、詩編 104:24, 27-28, 31
- 5 ルカによる 福音書 12:6 参照



ふたり 二人は 小鳥たちの 新しい 暮らしについて 話しました。リジーは、神様が 小鳥たちを 世話して くださる ように 祈りました。そして、神様の 美しい 被造物や 愛情深い 世話を 感謝したのでした。

編集：シャナ・ランドン（原作者：不明） 絵：アリア・クイン 彩色とデザイン：ロイ・エバンス
出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2019年、ファミリーインターナショナル
“What a Beautiful World!”--Japanese
関連の読み物はこちら ⇒ 子供のための物語、被造物、神様の愛と世話、賛美と感謝